

日本キリスト教団

京都教区ニュース

〒602-0917
京都市上京区一条通
室町西入ル
電話(075)451-3556
FAX(075)451-0630
Eメールアドレス
info@uccj-kyoto.com
発行代表者 望月 修治
編集責任者 大澤 宣

私にとって教区とは (26)

膳所教会 奥野 カネコ

「教区」について、日本キリスト教団の教憲第六条は「本教団はその教会的機能および教務を遂行するために教区を置く。教区は本教団所属教会の地域的共同体であって、教区総会をもってその最高の政治機関とする。前々項の教会的機能および教務は教区総会の決議ならびに教憲および教規の定めるところにしたがって、教区総会議長がこれを総括する。」とあります。二〇〇八年四月一八日、日本基督教団宣教研究所発行の「宣教研究所五〇年の歩みと今後」の中で、「日本基督教団教憲に示された教会観の特徴」と題して、第三五総会期宣教研究所委員会前委員長（現総幹事）内藤留幸牧師が解説をしておられますが、その中の、教区に関する説明の概要は「教区は

教団が教会的機能及び教務を遂行するために置いたものであって、教会的性格を持つが教会ではない。しかし、教区総会は教会会議であるとした。教区は地域的共同体である『諸教会の会議』だとした。また、教団は教区に教会的機能の大事な部分を委託した。本来的には教団が行うのであるが、地域的共同体である諸教会の会議である教区に、教区総会や常置委員会に按手札と准允、教師の就任と退任、その他教会の設立の認可権などを教団は委託した。それによって、教区は教会であると錯覚をおこした。この錯覚を取り除く課題が教団にはある」というものです。

私は二〇〇四年から、教団総会議員として教団総会に出席していますが、教区と教団の乖離を感じるがあります。そんな時、いつも聖書の御言葉が脳裏をよぎります。そして、その根本がどこにあるのか考え続けておられます。教団にある全ての教会が互いの立場

を尊重し、共に福音宣教の使命に邁進することができるよう祈っております。

私の信徒としての歩みにとっては、「地区」も「教区」も教会そのものです。法人格の有無という次元の話ではなく、信仰的、精神的な意味においてです。所属教会の信徒議員として教区総会に出席し、常置委員、教団総会議員に選出され、また、いくつかの委員会の委員にも委嘱されておりますが、全てが教会のご用と認識し感謝をもって働かせていただいております。私にとっては所属教会の延長のご用なのです。また、私にとって、教区は信徒としての訓練の場でもあります。所属教会では学び得ない学習や研鑽を得ることができました。神学的、教理的、専門的な事柄についてもご教示いただくことが多く感謝です。聖書は、どうすれば全ての人が幸せになれるかを示していると思っております。この混沌とした社会にあつて、私達、京都教区の働きが期待されているように思えるのです。これからも、七七の教会・伝道所が互いに支え合つて、主の御業のために働いていきたいものです。私も教区の一員として、真摯に御心を尋ねながらご用をさせていただきたいと思っております。

滋賀地区報告

近江八幡教会 美藤 章

教育委員会は五月二四日(土)一〇時より大津市の晴嵐会館で教会学校生徒大会を開催しました。主題は「みんな集まれ!歌って踊って、讚美しよう」で、講師に教団讚美歌委員会より小宮郁子さんと塚本潤一さんを迎えました。講師の良き指導の下に改定版こどもさんびかより選んだ歌の情景、言葉への振りつけなどを交えながら、合計一四曲を一時間半、参加者一同、一気に歌い通しました。

信徒会は六月二八日(土)午前一〇時より膳所教会において「交わりのネットワークづくり」の主題で信徒研修会を開催しました。江守秀夫牧師による開会礼拝後、谷文子さん(八日市教会)、中井正子さん(堅田教会)、造田泰さん(水口教会)の三人が主題に即して発題されました。谷さんは長年の教会学校教師の豊かな経験より教会ぐるみで子どもたちを育てる事、そして子どもたちとの出会いによる交わりの大切さを語られました。中井さんは地域に開かれた堅田教会の様ざまな実践例を通して多くの人々との交わりが形成されている事を話されました。造田さんは、水口教会がホームページを立ち上げて以来の様ざまな実績について語られました。午後には

発題に関する意見交換の時を持ち、教会の交わりの活性化について語り合いました。

社会委員会は八月三日(日)午後三時三〇分より大津教会で「八・一五を覚え、平和を求め集う集い」を開催しました。今年のテーマは「軍隊は、住民の生命と財産と生活を護るか?」基地を押しつけられた街岩国から、講師に大川清さん(岩国教会牧師)と、あいは野基地の現状の報告者として早藤吉野さん(あいは野平和運動連絡会事務局長)をお招きしました。大川さんは、岩国市が在日米軍再編成問題で揺れ動いている現状をビデオ及びレジメによって説明されました。また繰り返される米兵の犯罪に関しては、大川さん自身が米兵の犯罪を許さない岩国市民の会代表としての粘り強い活動を報告されました。そして米軍再編と憲法改悪はセットであり、米軍と自衛隊の一本化であるのは、市民が基地被害と共に加害者としての役割を担わされる事である。それ故にこそ軍勢力によらない平和な未来を私たちは決して諦めないことを訴え続けていると語られました。

早藤さんは、あいは野基地に新型ミサイル《パトリオット3》を配備することについてその背景と現況に関して報告されました。

大溝教会は八月四日(月)一〇時三〇分より宣教百周年記念式典を同教会にて執行しました。大溝の地における宣教百年の歩みは今

回発行された「大溝教会宣教百周年記念誌」に詳しく記されています。

青年部は「丹波で学ぶ。マンガン記念館と丹波新生教会を訪ねて」の主題の下に八月二九日(金)〜三〇日(土)の日程で夏の行事を行いました。参加者一同丹波新生教会での一泊の語り合いとマンガン記念館の見学による学びの時を分かち合いました。

按手を受けて

加茂川教会 上林 護

晴れて按手を受けることができたことを神に感謝します。

唐突ですが、私は極度のあがり症です。説教やスピーチに限らず、人前に出るだけで緊張してしまい頭の中が真っ白になってしまいます。

このあがり症という私の性格は、常に人前で話さなくてはならない者にとっては厄介な性格です。

二年前に補教師となつて、私は説教者として場数を踏めばこのあがり症も自然に治るだ

ろうと思っていました。そして、教会で副牧師として働かして頂きましたが、一向に直る気配がありません。

たとえば、説教では一番大事なポイントで囁んでしまったり、語らなければならぬ所を飛ばしてしまいトンチンカンな説教をしてしまったり、祈りにおいても変な日本語になってしまったりと未だに、緊張によって、時間を費やして準備してきたことが台無しになってしまうことが多いです。

ですので、私は説教の当番が当たっている日曜日には礼拝前に説教者として上手く語れるように祈りするようにしていました。

しかし、毎回説教をしているうちに、あることに、気づかされました。

それは、「神の御前でありのままの自分であることの大切さ」です。

この「神の御前で自分のありのままの姿であることの大切さ」というフレーズは、私自身もよく説教に用います。しかし、信者さんに説教でそう伝えていて一方で、私自身、説教者として語る時は、福音を正しく伝えなくてはいけない、とか、説教者としてもっと立派にふるまわなくてはいけないと、体裁を整えることに気をとられていました。余計なブ

レッシュャーを感じながら説教に望んでいました。それが原因で私は上がってしまったのかもしれません。

「神の御前でありのままの自分であること」とはもちろん、今まで通り、上がってしまった、失敗しつづけてもよいということではありません。また、自分が上がり症という欠点を神や多くの人の前で告白したからと言って直ることはないかもしれません。

しかし、もし、私のような欠点だらけの間でもありのまま歩んでいくことを神が許してくださっているのなら私は牧師として命あるかぎり歩んでいくことができます。私にとって牧師とは信仰のともし火を未来に継承していくことだと思っています。牧師という特別な響きにとらわれて、信仰を継承させるのではなく、強さだけではない弱さを含めたキリスト者としてありのままの姿で神の福音を述べ伝えていきたいと思えます。

本当は「按手をうけて」とのことですので信者さんたちと共に教会の礎の一人として、教会の仕事に従事していきたいというようなことを言おうと考えていました。しかし、本来の意味で教会の礎の一人として歩むには私自身牧師として「神の御前で自分のありのままの姿であること」が大切ではないかと思えます。このように、まだまだ欠点がたくさんあ

る不束者ですが、これからもよろしくお願ひします。

就任にあたって

京都教会 安部 勉

この四月より、京都教会担任教師として赴任いたしました。神学生時代、二年間お世話になった京都教会に「戻ってきた」との思

いです。

私は普段、近江八幡市にあります「ヴォーリズ記念病院」のチャプレンとして奥村益良先生の後任として勤務しています。

ヴォーリズ記念病院は二〇〇六年秋、院内独立型の緩和ケア病棟「希望館」を開設いたしました。一般的に「ホスピス」と呼ばれる病棟ですが、京都ではバプテスト病院にも設置されていることでご存じの方も多いと思います。

「ホスピス」という言葉の持つあるイメージ：「あそこに行ったらおしまい」「もうだめなんだって…」綺麗な建物、緑あふれる豊かな環境にあっても「でもね…」ってけっこう遠ざかる方がいらっしやいます。きっとホス

ピスと聞くと「死」を思い起こし、暗く重いイメージが心の中でできあがっているのでしょうか。また特別な人が過ごす場所とされているのでしょうか。でも実際はガン、HIVによる痛みを緩和し、「その人らしく」生きるための場を提供したいとスタッフ一同願っています。

テレビでは保険会社のコマーシャルで「ガンに正面からむきあおう！」と言うジャーナリストがいます。最後まで戦い抜くことが「カッコいい」イメージがあります。そんな空気の中、自分は弱気で戦いから離脱したくても周りの「がんばれ！」って声援に応えなければと思う方もおられるかもしれません。

でも「病気に打ち勝つ」ことだけが私たちの人生でしょうか。「その他の選択もあるんですよ！」って皆さんにもお伝えしたい思いでいっぱいです。勝つことばかりがもてはやされる昨今、ありのままの自分を受け入れ、「自分らしい生き方」を見つめることも選択肢の一つなのですから。

日々、ホスピスでの出会いはそれぞれの家族の物語に関わることに思います。喜びばかりでなく、悲しみや苦しみ、やりきれなさ、砂をかむような思い…でも、それぞれに「生きる」ことに向き合っておられます。

私は今、教会とは違う出会いの中で神さまの言葉を生きています。この喜びを一人でも

多くの方と分かち合いたいと願っています。お招きがございましたら喜んで皆さまの教会の奉仕に赴きます。お気軽にご連絡くださると嬉しいです。

喜びはそう小さくないので

京北教会 今井 牧 夫



京都市の下鴨地区に
あります京北（きょうほく）教会は、五月二
五日に私の主任牧師と
しての就任式を開催し、
教区内外から多くの方々

のご参集とお祈りをいただき、恵み深いひとときを持たせていただきました。心から感謝いたします。今後、京都教区の皆様との主に
ある交わりを、心からお願いたします。

今、私は、神の導きによって建てられ、みことばの恵みを証しし続けてきた京北教会の、暖かく力強いお一人一人の「信」に支えられ、主イエス・キリストの名によって神に祈りながら一日一日を過ごしています。これが幸いでなくてなんでしょう。神様、ありがとうございます。

以下に、私の祈りを献げさせていただきます。

「祈り」

私達が願う前から、必要なものの全てを、先にご存じの神様。

私達の日々の全てを包んでおられる神様。感謝します。そして願います。

生きることにそのものにおしつけいた全ての人に、慈しみを。

過去も未来も暗く思えて、希望など意味が
無いと思うに至った全ての人に、愛を。

聖書にも教会にも、ついに興味が無くなっ
てしまった全ての人に、新たな出会いの喜び
を。

それらを、みこころのままに、天の雨のよ
うに地の人に降らせてください。

「どこにいるのか。」（創世記三章九節）

このみ言葉を全ての人に、聞かせてくださ
い。

その神のみわざのために、全ての教会と伝
道地を祝福し、用いてください。

人が皆、恵みに応えて正直に生きることが
できますように。

人が、つつしみ深く生きることができま
すように。

主イエス・キリストの名によって、この祈
りを献げます。

就任にあたって

同志社女子中学・高等学校
小田部 実生子

私は、大学を卒業してから、いくつかのキリスト教学校で聖書科の教師として働いてきました。

この度、二〇〇七年三月に横須賀学院中学・高等学校を辞任し、二〇〇七年四月から同志社女子中学・高等学校の聖書科教師として働く機会を与えられました。

今日、日本社会において苦悩を抱える青少年の問題はますます深刻化しています。子どもによる親の殺害や一〇代の少年少女による殺人事件が繰り返し起こっています。また、「いじめ」、「自殺」、「不登校」、「摂食障害」など、多くの深刻な問題を抱えている青少年がたくさんいます。

私がこれまで働いてきた中で出会った多くの生徒達も、そのような様々なうめきを抱えていました。そして、誰かにその思いを聞いて欲しい、受け止めて欲しい、しかし誰に話したらいいいのかわからない、どこに苦悩を持っているかわからないという生徒の状

況を知らされました。

子どもから大人への移行期にいる中高生達は、人格形成においてとても重要な時期を学校で過ごしています。その大切な時に様々なうめきを抱えながら過ごす生徒達に、寄り添って、一緒に聖書を聞きながら、真に内面的に豊かな人間となっていけるように援助していく働きを担っていきたいと思っています。

生徒達が京都教区の様々な教会にお世話になると思いますが、地域にある教会に助けて頂きながら、教会と学校が共に生徒を育ていくことができたらと思います。よろしくお願いいたします。

就任にあたって

城陽教会 近藤 十郎

一九八〇年、鳥取教会牧師を辞して同志社女子大学の教員に就任、京都教区では膳所、同志社（担任）にそれぞれ数年籍を置いていま

したが、一九九〇年から御導きあって同志社の京田辺キャンパス近くにある城陽教会の牧師を代務しております。代務者としての年月はあつという間に一八年間の長きにもなっ

てしまいました。この度女子大を定年退職するにあたって第二の人生をどのように歩むべきか、と祈っていましたが、同じ城陽教会で、今度は「専任の牧師」として仕えることになりました。六月一五日に教区議長の望月牧師に牧師就任式の司式をお願いしました。今更どうして、と皆様からは多少ひんしゆくを買ったかもしれませんが、京都教区内諸教会・伝道所からたくさんの方が就任式に駆けつけてくださって、心温まる励ましのお言葉を賜りました。この誌面をお借りして改めて感謝の意を表したく存じます。

城陽教会は、世光教会の伝道所として一九八〇年に宣教の歩みを開始して、今年で二八年目、間もなく三〇年の区切りの年を迎えようとしています。まだまだ開拓途上の教会ですが、地域にしっかりと根ざした地道な教会形成ができるように、教会員一同心を一つにして祈りつつ日々の業に励んでいるところで。城陽の地は、京都と奈良の中間地点に位置し人口急増地帯でもあります。宣教の拠点ここに置くことは創設に関わった人々にとつては、この地が主から示された課題を実現するために格好な場所になりうると思われました。同志社のキャンパスが近くにあることも、キャンパスに集まる若者たちに教会として「居場所」を提供し、ここから次代を担う働きびとを世に送り出すという宣教の使命を果たし

ていくために重要なポイントになるのではと
考え、そのために祈り続けてきました。細々
とした歩みではありますが、教会が今現代人
に語るべきメッセージは何か、教会が主の体
なる教会として、どのような宣教の使命を期
待されているのか、ということに誠実に模索
しながら今後とも祈りつつ励みたいと願っ
ています。

京都上桂伝道所に就任して

京都上桂伝道所 奈 良 いずみ

田畑に囲まれた地域
だったと江戸久一牧師
のお連れ合いの順子様
のお葬式に参列した時
に思ったが、これほど
住宅地域へと様変わり

をしているとは知らなかった。物集女街道と
西京区役所の交差点を山側に入っていくと京都
上桂伝道所となるが、看板には「京都上桂教
会」と大きく掲げられている。はじめてこの
看板を見たとき、大きなことを考えておられ
た江戸牧師の個人的な趣味かなと感じた。が、
去る八月三日高里鈴代さんが一緒に礼拝に参
加され、礼拝後の懇談で「かつて沖繩教団で
は少数者の集会でも教会という名称をつけて

いたが、日本基督教団に合同した時点で多く
の教会は『伝道所』へと変更させられ、その
上、今まで無牧師の時に教会を維持し守っ
てきた信徒が教区総会に議員としては参加が
出来なくなつたのですよ」と。この言葉を聞
いたときから、伝道所へのおもいを新たにし
た。わたくしの小学生の二年間ほどは江戸久
一牧師は「日曜学校の先生」として記憶に鮮
やかに残っている。長岡町・神足駅前の家か
ら調子まで妹と二人で通つたことを思い出し
ながら、江戸牧師の後、この伝道所の今後を
考えていくためにもお引き受けさせていただ
いた。偶然、今年の西山地域の平和集会の実
行委員長となり、その経緯で礼拝に高里さん
をお迎えしたら、先のお言葉だった。とても
すんなりと教団の姿、教師と信徒の関係など
がわかり、なんといままで高くから物事を見
難しく考えすぎていたのかと恥ずかしくなつ
た。相手に届けるためには、理解しやすく、
やさしい言葉で語るのには難しい。しかし彼女
は届けておられる。なぜできるのか? こうい
う届け方をこれからは自分もしたいと。高里
さんの日常からにじみでる言葉だからこそ、
彼女の底力の強さを見た思いがする。いまこ
の伝道所には今後のすすむ方向をみつけるの
も大きなテーマだ。どこから手をつけるのか
も見当がつかないほどだが、一伝道所だけで
は解決もできない。教区の皆様の知恵と力を

いただき、祈りをあわせて解決への道をさぐ
りだしていきたい。

就任にあたって

長岡京教会 韓 守 信

「牧師に必要なのは、
聖書の知識と常識であ
る」という皮肉じみた
笑い話を耳にしたこと
があります。これは正
直、牧会伝道の働きに
用いられている者にとつて腹立たしい言葉で
す。しかしながら、実的に射ていると思い
ます。

本年四月から、長岡京教会の主任担任教師
として仕えています。ここには、わたしを迎
えてくださった教会員一人ひとりの祈りと決
断だけでなく、わたしの罪の贖いのために十
字架に架られた主イエス・キリストの召し
がありました。主イエスは、ガラヤ湖畔で四
人の漁師が懸命に働いている姿をご覧になり、
「わたしについて来なさい。人間をとる漁師
にしよう」(マコ一七節)と言つて、かれ
らを弟子にされました。わたしは、主イエス
のこのような眼差しと御言葉が、わたし自身
にも向けられていると確信しています。どん

なときも、主イエスの選びを忘れず、教会伝道に励んでいけたらと思います。

教会には、さまざまな背景から多くの人が集っています。たとえ、教会が主イエスの手足であるとしても、そこに集っている一人ひとりとは、根本的に罪人であることに間違いありません。それゆえに、教会には、色々な無慈悲、憤り、怒り、わめき、そしりなどが、絶えずつきまといます（エフェ四章二五節―五章五節）。また、それ以外の痛み、苦しみ、悲しみなども伴います。主イエスの弟子でありつづけることが、心の底からイヤになることもあります。そのような気持ちになったとしても、「兄弟たち、わたしの身に起こったことが、かえって福音の前進に役立ったと知ってほしい」（フィリ一章一二節）と明言した使徒パウロに倣い、自らの実存的な苦難だけでなく、それらの困難をしっかりと受け止めたいと思います。福音の前進のために、教会員の皆さんと手を取りあって、歩んでいけたらと願っています。

ただ、主イエスから教会伝道者として遣わされているわたしは、いつも厳しい裁きの前に立たされています。このことを、率直に認めざるを得ません。「わたしの兄弟たち、あなたがたのうち多くの人が教師になってはなりません。わたしたち教師がほかの人たちより厳しい裁きを受けることになる、あなたが

たは知っています。」（ヤコ三章一節）この御言葉に示されている厳格さを心に刻み、主イエスの前で、そして、教会員の皆さんの前で、与えられた持ち場での働きを謙虚に担っていただけらと思います。

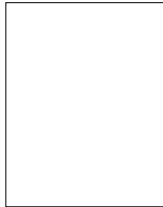
京都教区の皆さん、これからもよろしくお願いいたします。京都教区に連なる教会・伝道所の一致と連帯が、これまで以上に堅固になりますよう、心よりお祈りいたします。

イエスは主なり & シャローム！

※ご本人の御希望により、お名前にルビをつけています。

就任にあたって

同志社教会 望月 修治



同志社教会主任担任教師として招聘を受け、四月から着任しました。前任地大津教会では一年半にわたって働きの場を与えていただき

ました。幼稚園園長の責任も託されて毎日を歩んできましたので、毎朝幼稚園の門に立って登園してくる子どもたちを迎えるのが楽しみの日課でした。今はその朝の時間が、牧師

館に隣接する同志社女子中学校・女子高等学校に登校して栄光館での礼拝に向かう生徒の皆さんの元気な声と、やがて聞こえてくる讃美歌の歌声を聴く時間が変わっています。

伊丹教会担任教師を経て、東神戸教会、大津教会で働きの時を与えられてきました。これまでの教会と大きく違うのは、同志社教会は自分の教会の礼拝堂を持っていないことです。毎週の礼拝は同志社栄光館ファウラーチャペルを借りて行っています。一五〇〇名収容できるスペースに七〇〇九〇名平均の出席者が集つての礼拝です。毎日曜日には、礼拝の受付場所や週報ボックス、その他掲示板や案内パンフレットなど所定の位置に配置することから礼拝準備が始まります。一二時になるとマイクが自動的にオフになるので、それまでに礼拝と諸連絡を終える必要があります。そして全てを元通りに片付けて日曜日の午前中が終わります。役員会、聖研・祈祷会、青年会、各委員会、子どもの教会スタッフ会などはすべて牧師館一階で行われます。

栄光館は冷房設備がありませんので、六月から九月にかけての礼拝時には、受付に団扇が並びます。周囲の扉はすべて開け放つのですが、暑さは容赦なく、汗が流れ落ちます。各自、団扇で暑さをしのぎながらの礼拝風景も同志社教会の毎年の風物だと知りました。

同志社教会は一九九六年〜二〇〇八年にか

けて「同志社教会双書」一〜六巻を発刊しました。「同志社教会員歴史名簿」「同志社教会一二〇年記念誌」「京都のキリスト教」「同志社教会一九〇一〜一九四五」「同志社教会一九四五〜一九八〇」「同志社教会一九八一〜二〇〇八」の六巻です。それを読むと、同志社英学校設立の翌年一八七六年に設立された同志社教会の歩みの一側面として、学園教会としての役割ということの内実を問いつけてきたことが挙げられます。京都教区に属する教会としての責任と役割ということと合わせて考え合っていきたいと思っています。

九月一四日・一五日に「同志社教会夏のトリート」と銘打って一泊の集いを持ちました。現在の教団状況を踏まえながら、会衆主義教会の伝統を大切にできた教会として「自由・自治・独立」の理念に立ち続けることを話し合う時間も持ちました。大津教会在任中に引き続き、京都教区の皆さんと一緒に歩ませてもらいたいと思っています。

教会紹介(23)

(70) 京都上桂伝道所

奈 良 いずみ

京都上桂伝道所の外壁、玄関に「京都上桂教会」と大きく掲げています。この大きな看

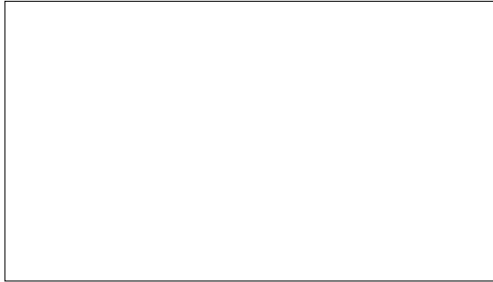
板に込められた江戸久一牧師の思いはいかばかりだったのかと、もう伺うこともままなりません。が、伝道所の歩みを江戸久一牧師の引退にあたり、〇八年三月にご子息の江戸清様（奥中山教会牧師）が作成されたあゆみを参考にして書きます。

京都上桂伝道所は乙訓郡長岡町（現在は長岡京市）の教会でご奉仕されていた江戸久一牧師が、一九七一年八月京都市西京区山田久田町に転居された時からはじまりました。江戸牧師は運輸会社勤務で生計を立てられましたが、お連れ合いの俊美様がこの地域に私立西嶺保育園の開園にあたり保育士として就職されその同僚、園児、関係者にまずは伝道の種まきが始まりました。が、七七年に俊美様は召天され、七八年にこの土地での伝道の意志を固めて「京都上桂伝道所」を開設。江戸牧師は八〇年に田中順子様と再婚され、多くの地域の子どもたちへ「手作り紙芝居」を携えて日曜日礼拝後には森下公園などで精力的に子どもたちとかわり続けてこられました。当時、このあたりは、田畑に囲まれたのどかな場所だったのです。こうして、山田南山田の家を伝道所の会堂として登録し、子どもむけの多くの本、絵本に囲まれ家中が子どもの自由な出入りであふれたのです。順子様は滋賀県内の福祉関係の方々とお交わりがあり、またあつい絆を江戸牧師一家とは結ばれ、伝道所の活動を全面的に支えてこられました。

数年後順子様は召され、また、地域は都市化の波で田畑は減少し、のどかさはなくなり、人々の移動は激しく定着へとはならない状況が重なり、おひとりでの伝道には相当に困難を極めたようです。まさに、時代的には洛西ニュータウンの開発と関係もあるでしょう。そして三〇年後のいま、ニュータウン自体が活性化を模索している時ですから、時代のよみがむつかしいことだったでしょう。

さて伝道の特徴は、無教会に関心を持たれていた江戸牧師らしく家庭集会風の伝道です。礼拝開始時間も信者さんの都合にあわせて変更し、週日は公文教室、習字教室で使用し、水曜日は祈祷会、聖書研究、土、日曜日は礼拝、伝道にと南山田の建物はフル回転。江戸牧師ご夫妻の子どもたちへの伝道を喜びとされた強い思いを彷彿とさせるものが今も伝道所の建物にはいっぱい詰まっています。江戸牧師のユニークな神学、伝道には中々味わい深いものがありますが、より多くの人々が受け入れるには少々距離があったのではないのでしょうか。江戸牧師は高齢ゆえ、ひとりでの生活は困難と判断され、今年の三月で引退、伝道所は二代目として奈良いずみ牧師を迎えました。江戸牧師のユニークなスタイルには近隣の教会さえも困惑を感じながら、ご自身の背景からすればジェンダーのバイアスもかかるでしょうし、また教員もどのようにOSを出したら良いのかさえもわからないほ

どだったのではないかとおもいます。伝道所教会が「自立」「自由」をそれぞれが喜んで共有することができなく、見捨てられたと感じるような思いに至り、伝道に偏りを与える場合、近隣の教会、教区とのかわりをどのように図れるのだろうか？自己開示もできるのだろうか、まさに「連帯」を考えるとときにひとつのケースとして痛く強くイメージを与えてくれるのが京都上桂伝道所でもあります。従来の家庭集会風の姿から一歩踏み出すには相当な勇気を要するでしょう。また少数で守る礼拝でこそ心の落ち着きを得られる方々と共に、「大きいこと」「強いこと」が「ベスト」という意識にこだわらず、この伝道所の価値をおぼえ、主イエスの声を聞く群れへとすすむ願いをもちます。主イエスとともに皆様から覚悟してお励ましをいただきますよう、また今後のあゆみとともに考えていただけるとの仲間を欲しているのが、現在の伝道所の姿です。



同性愛者差別問題小委員会

「出前講座」

宇治教会 前川 裕

京都教区同性愛者差別問題小委員会では、今年度より「出前講座」を開始しています。これは、委員が教会の要請を受けて訪問し、半時間くらいで解説をします。それから、質問や意見などを伺い、どのようなことが問題とされているのか、私たちはどうしていけばよいのか、などを一緒に考える、というような進み方をしています。

まず、そもそも「同性愛とはなにか」ということから考えていきます。「同性愛」という言葉は世の中でもよく聞かれますが、多くは偏見を与えかねない使い方です。また「私には関係ない」という方も多いのですが、知らないことが自分を真実から遠ざけてしまい、かえって誤解を生むことにもつながってしまいます。同性愛の方々の思いについては、堀江有里さんの『「レズビアン」という生き方』(キリスト教の異性愛主義を問う) (新教出版社) や、ゆやまなおさんの講演記録『LGBTIの支援活動を通して』(京都教区発行)といった資料も参考に紹介しています。続いて、「なぜ教会でこの問題を扱う」のかを考えます。きっかけは教団常議員会・教団総会・教区総会における差別発言・文書等々

ですが、これは「たまたま起こった事件」ではなく、キリスト教や教会そのものが抱えている問題があらわになったことなのです。

これらの差別発言・文書は、広く同性愛者への差別的な意識を含んでいます。教会を含む社会は、暗に「(強制)異性愛」を前提としていますが、実はそれは当たり前のものではありません。「その人らしく生きる」ことが社会の偏見によって制限されるとすれば、それは人権の問題といえるでしょう。

教会もまた、同じように社会の意識から自由ではありません。イエスは社会的弱者の解放を告げ知らせましたが、考えるならば実際には教会は弱者を遠ざけてしまっているのかもしれない。この問題を素通りするのではなく、自分自身のこととして捉え直すことが求められています。

私たちが信仰生活の根拠としている聖書は、生きる力を生み出します。しかし同時に、読み方によっては強力な差別をも作り出すことができるのです。「二人の人間が生きている、その現場から」聖書を読んでいきたいと願います。このことを一人で考えるのではなく、皆で考えあわせてようやく、知りえることではないでしょうか。

ですから、まずは「問題があることを知り、それを共有している」状態を教区の中に作り出すことを、委員会は広めています。どうぞ「出前講座」をご活用ください。

